

・・・生成AIについて思ったこと・・・

私が計算機に関わり始めたのは、約50年以上前です。紙テープにプログラムをパンチし、空調の効いた巨大な計算機室のオペレータに手渡して、別室でラインブタからの出力を待つという状態でした。ちょっとした計算でも半日仕事でした。その後、入力はパンチカードからTSSに移り変わり、計算機室に出向かなくとも自室の端末から随時使用可能となりました。ハード面でも計算機の更新を重ねるごとにパワーが飛躍的に向上し続けました。

現在では、このような汎用計算機に頼らずとも、数十万円で購入できるデスクトップパソコンで10年位前のスーパーコンピュータに対等な仕事が自宅できるようになり、かつては想像もできなかった数十ギガバイトくらいのデータを個人で扱っています。何時になるか分かりませんが、将来に話題の量子コンピュータが普及すると、とんでもないくらいのデータハンドリングとなるでしょう。

そして、もう一方のソフト面では、生成AIの登場です。ネットワーク上に蓄積された膨大なデータを、ニューラルネットワーク、大規模言語モデル:LLMを駆使して、知りたい情報を入力すれば、あたかも人間と会話するように自然な言語で答えを返して来たり、プログラムコードの診断およびより良いと思われる問題解決策を提案します。最初は、Google検索、Wikipediaの高度なものと思って使い始めたのですが、単純な検索以上に、より広範な情報を提供してくるので、非常に重宝しています。実は、この文章を書くにあたり、「生成AIの歴史、現在および将来について教えて下さい。」と質問したところ、実に見事な返事が返ってきて、コピペで済ませようかと思ったくらいです。

ただ注意すべきは、Chat GPT: Generative Pre-trained Transformerの字義の通り、現在までに存在するデータを参照して関連があると思われる情報を繋ぎ合わせていることです。その結果、事実とは異なる情報や、文脈とは全く関係ない内容も出力することもあります。私は科学技術論文に特化したSicSpaceと言うエンジンで、仕事に関係がある論文を検索します。出力の文章は滑らかな自然なものです。質問とはあさってのものを羅列することも多々あり、情報を鵜呑みにする危険性のリスクが常にあることに注意が必要です。

生成AIは、様々な可能性を秘めた技術で、今後社会のあらゆる分野に広がってゆきます。しかし、便利ゆえに情報に振り回されない確かな判断力を養わなければならないと思います。

2025年5月29日

校区住民協 副会長 河邊 寛

（山の根親交会会長）

令和7年6月度役員会 （第92回）

出席者：役員：山崎徳次郎、石井達郎、
鈴木為之、小林寿志、長嶋啓、新倉洋一、
細野裕、鈴木友行、森戸久朝、大塚邦彦、

開催日時と場所：2025年6月7日（土）

13:00～15:10 久木会館

芹沢ふさえ、龍村敦子

久中PTA会長：飯国量子

役員外：江洲真紀子、高野毅、

行政：堀田昌希、保川真樹、津田陽一、津金直也、
宮本雄一、竹森秀朗、矢野直樹、宮田義忠、小野
配布資料

(学校教育課) 他 1 名

社協：平山智也

以上 26 名

- ①第 92 回 6 月 7 日役員会アジェンダ
- ②金沢新道踏切の改良についての資料 1 枚
- ③コミュニティスクールについての資料 1 枚④
- 社協発行「さくら貝」1 枚 ポランティア募集チ
- ラシ 1 枚

議題

(1) 行政からの説明事項

①JR 金沢新道踏切改良工事に関すること : JR
東日本設備担当宮田さん、横須賀土木担当者、都
市整備課津田課長 津金さんがそれぞれの立場
から改良工事の説明がされた。改良の目的は歩道
幅員の拡幅、これにより歩行者、自転車の通行が
今よりは安全に通行できる。

電車が通過する間、待つ人のための滞留スペース
を 4 カ所設ける。工事期間は 2025~2027、3
月までの予定。住民協からは「エレベーターの設
置希望」「幅員の幅の予定 1, 5 メートルより広く
した方がよい」などの意見がだされた。

都市整備課から、今後の JR 逗子駅駅舎の改良工
事について内容が少し発表された。

また、逗子高校跡地の使用についても京急バス会
社の様々な計画があることが説明された。

(2) 事務局からの報告：

- ①市総合計画審議会に住民協から山の根の藤江克
己さんに委員として出席いただいていたが、
健康上継続が不可能となり、かわって石井達郎
さんが委員として参加する。
- ②久中 P T A 会長飯国さんから就任挨拶。
- ③「西瓜市」のポスター（鈴木為之さん作成）
の配布
- ④社協平山さんから、広報紙さくら貝の内容説明、
ボランティア募集について説明。

⑤新聞切り抜きコピー 2 枚「逗子市総合病院の誘
致断念」に関する記事、葉山クリーンセンターに
関する記事

⑥2025 年度収支予算原稿差し替え分 1 枚

⑦住民協ひろば (98 号)

(三浦半島全域の車両の車庫、運転手育成のため
の施設、他に災害時のゴミ集積場所など、これか
ら検討されるもよう)

②コミュニティスクールについて 学校教育課
から説明：配布の資料をもとに説明がなされた。
学校が主体となる「学校運営協議会」は学校教育
が担うことになる。「地域学校協働本部」の名のも
とに検討される部門は社会教育が時間をかけて
担うことになる。

久木小学校区では避難所準備委員会で小中の校
長をまじえて災害時の学校、地域の課題を共有し
ており防災を軸に検討することによってそれが
児童、生徒の防災学習にもつながり、コミュニテ
ィスクールの基軸になるのではないかと住民協
側から提案をした。

久木西瓜朝市のお知らせ

ご好評を頂いている 三浦西瓜
の朝市を開催します。
三浦の野菜を併せて提供します。

7 月 13 日 (日) 9 : 30 ~
久木会館玄関ポーチ

《寄稿》 居酒屋で その一言がなかったら これはなかったな

2025.4.27

駄洒落栖人

「これ、とても美味しいですよ。ビールにピッタ
リ」と言ってお姉さま笑顔で置いて行ってくれた
肴ワカメのから揚げというものだ。
なるほど、旨い、ビールにピッタリ。

ちょっと塩気が強いけど。

それがいい。

そのお姉さま、お酒はいかがかとちょうど言いタ
イミングで注文を聞きに来る。

絶妙なタイミング。

飲まないわけにはいかなくなる。

通りすがったそのお姉さまを捕まえておじさん。

「いやあ、あなたのおっしゃる通り、このわかめの肴、間違いなく美味しいです。

ちょっとお礼を言いたくて呼び止めてしまいました。」

いやあ、そういつてくださるとお勧めした甲斐があります。私も嬉しいですよ、って。

ごちそうさまです。

しばらくして「お愛想」っていったら、またその方が来て、

「また来てくださいね。」一緒に写真を撮っていいですか、大丈夫ですよって。

愉しく飲めました。

あの一言添えたお姉さまのサービス精神の一言がなかったら、ここまで打ち溶けませんでしたから。

何気ないほんの一言が人と人の距離を近づける…。 校区住民協 監事 細野 裕

《レポート》 「被害シナリオ」としての地震被害想定 地域特有の被害想定を共有を

鈴木 為之（山の根在住）

神奈川県は、今年の3月に「新しい県地震被害想定報告書」を公開しました。その中には数字で各市町村の被害想定が記載されており、逗子市に係る数字は、住民協ひろば5月号（97号）に掲載してあります。

被害想定を、数字ではなく状況として記述すると、実際に起こりうる被害の姿が想像されて、イメージとして脳裏に浮かんできます。この報告書では、大正型関東地震（＝関東大震災）を例として、被害状況を「被害シナリオ」として時系列でまとめ、市民が避難或いは救援行動を計画する場合に参考になるのではないかとと思われるので、その一部を末尾に転記しておきます。

但し、ここに書かれている状況は、広域の一般的に起こりうる被害状況です。

被害状況を自分たちが住んでいる狭い地域に置き換えてみると、そこにはその地域特有の、住民が現実遭遇する被害状況が見えてくるのではないかと。被害状況を同じような居住環境の狭い範囲に落とし込んで、シンプルな「被害シナリオ」を作成しておけば、その居住地域の発災時の自助・共助の一つの指針として大いに役に立つのではと思います。

そのためには、地域を歩いて自分がどのような環境の中で生活しているかを、まず知ることでしょう。

久木小学校区で考えてみれば、高台の新興住宅地域、比較的広域に開けた古い住宅地、新たに開発された住宅地、山沿いの住宅地、県道沿いの商業・住宅地・狭い谷戸の中の住宅地・マンションとあ

り、一般的に想定される被害の他に、それぞれの地域特有の被害が想定されるのではないかと思います。

例えば私が住む狭い行き止まりの谷戸の中ではどういう特有の被害が想定されるか。その一つをあげれば、袋小路の出入り口がふさがれることです。車の対面通行が困難な狭い道は、石積みやブロック塀の倒壊による、更には電柱の倒壊による或いは家屋の倒壊による道路の閉塞が考えられます。その結果はどうなるか、緊急車両の通行は当然不可能、被害状況によっては人の出入りも困難な孤立状態となります。

これは谷戸に住む地域住民共通の被害であり、他力の期待できない発災直後から3日間に於いては、住民が力を合わせて可能な範囲で閉塞物の除去をする。地域住民の共助の大きな対象となるでしょう。

被害状況の共有、それに先立つ被害想定を共有、そのための地域特有の「被害シナリオ」の作成は大いに減災に役立つことでしょう。

県が作成した「被害シナリオ」は、被害が最も大きくなる恐れがあるとされる、冬・平日・午後6時の発災を想定して、時系列に、発災～1時間後（18時～19時）・1～6時間後（19時～午前0時）・6～24時間後（0時～翌日18時）・・・6か月～と区別して書かれています。

参考として、人が最も動き出す6～24時間後（0時～翌日18時）として記載されている状況を転記しておきましょう。

【6～24 時間後(0時～翌日 18 時)】

震度 4 から 5 強の余震が 1 時間に 1 ～ 2 回程度発生する。

朝には、津波警報が津波注意報に切り替わったが、水は引かず、捜索や救出・救助をすることができない。寒空の中で、緊急避難場所となるビルや高台等で過ごす避難者が多数に上る。夕方 近くになって津波注意報も解除となり、緊急避難場所から避難所への避難者の移動が始まるが、高所から出られず、救援を待つ者もいる。

火災の延焼は消防の延焼抑止活動もあり、拡大の勢いは止まったものの、鎮圧には至らず延焼からの避難者が最大となる。消防の応援もまだ始まらない。

全体の状況がなかなか判明しなかったが、夜明けとともに、被害の甚大さが明らかになってくる。消防や警察には、要救助者の通報も断続的に寄せられるが、対応は全く追いついていない。夕方近くになり自衛隊等の応援部隊が県内に入り始めるが、本格的な活動には至っていない。

編集後記

金沢踏切の改修工事に思う事・・・6 月の住民協役員会で JR 金沢踏切（県道 205 号）の改修工事について JR 東日本、神奈川県横須賀土木事務所、逗子市都市整備課より説明があった。金沢踏切は 4 年前の「山の根踏切」閉鎖時の JR 側説明時の代替案提示の一つに金沢踏切を通り易く安全なものとするものがあり、どうなっているのだろうと地元の仲間内で話題となっていたものが、やっとご登場の印象のある話題である。

2025 年から 2027 年 3 月を工事予定期間として改修工事が行われるとの事、改修工事の骨子は現状線路を挟んで山側と市街地側を繋ぐ車両、人、自転車等の往来頻度が高い踏切であるに拘らず、車、人、自転車が行き交いするスペースが狭く、又 JR の線路が多く距離の長い踏切となっており、危険すら感ずる不便な踏切であり、これらの点を改善すべく改修工事が行われるとの事である。

先ず①狭い歩道の道路幅を 75cm から 150cm の 2 倍の広さに拡張する。②踏切の両側に踏切待ち歩行者用の滞留スペースを確保すると云う。

説明を聞いて思う事は現状よりは多少利用者にとって安全性は改善すると思うが、車・人・自転車が行き交い、距離が長く、交通量の多い踏切であることに変わりはなく、危険度は高く、必ずしも安全なものとは云い難いと感じる。

最近の高齢化の進行と共に、杖を使う歩行者も増え、車いすの利用者も増加基調にあり、例えば杖を使う高齢者が、踏切の警報機がなって慌てて踏切を渡ろうとして杖がレールに挟まり、距離の長い踏切であるが故に安全は担保されず、自転車等も同時に頻繁に利用する場所でもあり、何かリスクを低減する事を考える必要があると思う。

やはり費用負担は自治体負担となるだろうが、踏切に代わり、より安全な地下道路を設置すべきものとする。当該費用負担は市にとって最重要な基礎インフラとして長期的な投資として、平素から備える様な根本的に考えを改める必要があるものとする。

日頃 JR の利便性の恩恵を被っている事は認めるものの、鉄道により街の分断は街の住み易さを考える上で最重要課題の一つである。因みにお隣の鎌倉駅には踏切を超える歩道トンネルが出来ている。これはどの様にして実現したのだろうか。

事務局長 石井 達郎

避難所は、損傷が酷く開設できない施設も多い。開設された避難所も、運営の体制が整わない中で、避難者が殺到したことから、深夜には避難者が入りきれない避難所が続出し、自宅避難や避難所以外への避難による避難者が増え始める。避難所に指定されていない場所での自主避難所も立ち上がり始める。一部の避難所では食料が不足し始めるほか、火災の延焼に伴い、二次避難が必要な施設も出てくる。

ライフラインは県内の広い範囲で断絶しており、復旧の目途は立てられずにいる。鉄道の車内に取り残された乗客の避難は、鉄道事業者の誘導体制の確保に合わせ、深夜から順次進められる。帰宅困難者の徒歩での帰宅や、自治体の設置する一時滞在施設や避難所への移動が活発になる。

道路は被災状況の調査が進み、主要道路等の交通規制が続く中、通行可能な幹線道路は緊急交通路の指定が行われ、一般車両の通行が困難になる。アクセス道路が断絶し、孤立化した地域も判明してくる。